

令和7年度第8回 感染症発生動向調査協議会

議事概要

1 日 時 令和7年11月19日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）
高橋 義人（岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長）
オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長）
事 務 局：酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策係長）
松岡 真史（感染症対策推進課 技術主査）
野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）
吉田 菜穂（保健環境研究所 専門研究員）
西岡 真弘（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題（進行：川本委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。

月番委員のコメントについては資料のとおり。

- ・（委員より）日本紅斑熱は昨年まで1例のみでしたが、今年は発生が続いています。疾患に対する意識が高まったことで報告数が増えているのかもしれません。
- ・（事務局より）日本紅斑熱疑い事例の検査はこれまで行っており、持ち込まれる検体数はそれほど変わっていません。感染地域についてのデータも保健環境研究所で調査を行っているところです。
- ・（委員より）ぜひデータをまとめて、注意喚起につなげてほしいと思います。一般診療を担当する医師に注意喚起するとともに、一般の方にも、極端に怖がらせることはないですが「咬まれた」と思ったら注意するように啓発をしていかないといけません。

【検討すべき課題について】

- ワクチンに対する医学的に正確な発信の必要性について

- ・（委員より）ワクチンに対して、良くない印象を持っている親御さんが増えているように感じています。

- ・(委員より) 先日、県の予防接種協議会でも同じような話がありました。コロナ禍の後、MR ワクチンを始めいろいろなワクチンの接種率が下がってきてています。コロナワクチンの接種に関して難しい議論があった中で、旧来のワクチンでも同じように避けるような動きが出てきたような気がします。
- ・(委員より) 岐阜県予防接種センターでは研修を毎年行っており、市町村の予防接種担当の保健師も参加しますが、今年度はワクチン忌避への対応についての講演を予定しています。無理に接種することはできませんが、正しいことをしっかりと伝えることが重要だと思います。

○岐阜県の ARI の病原体検査の状況について

- ・(事務局より) 今年開始された ARI の病原体検査結果について、保健環境研究所保健科学部でまとめたデータをお示しします。
- ・(委員より) 例えばインフルエンザは、病原体検査でその時流行している型が分かりますし、コロナのゲノム解析についても遺伝子型の変化をみるためにやっていました。この ARI もかなり力を入れてやっていますが、こうした検査データをどういう風に使っていけばよいか検討が必要です。
- ・(委員より) 今流行っているのが何のウイルスか、興味を持ってみている開業医もいると思いますが、即時性をもって出せるかどうかが課題だと思います。
- ・(委員より) (4 月から蓄積してきて) 実態が分かりかけていますが、1 年間検査を続けていけば 1 医療機関あたり 250 件程度の検体が確保できることになり、医療機関ごとに分析することもできると思います。さらに 2、3 年続ければいろいろな傾向が見えてくる可能性もありますので、うまく活用していってほしいと思います。